

## 日本教育社会学会 第6回若手研究セミナー 開催のお知らせ

2018年1月6日

日本教育社会学会教育部長 山内乾史

日本教育社会学会では、教育社会学研究の研鑽を積んでいる若手研究者を対象に、教育社会学の最新の知識の習得と参加者相互の新たなネットワークの構築を図ることを目的としたセミナーを、下記の要領で開催します。

- (1) 主 催 日本教育社会学会
- (2) 日 時 平成30年3月24日(土)13時～3月25日(日)15時40分
- (3) 場 所 東京大学教育学部・教育学研究科  
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1  
(地下鉄丸ノ内線・大江戸線 本郷三丁目駅 下車 徒歩約10分  
地下鉄「千代田線」湯島駅 下車 徒歩約12分  
地下鉄「南北線」東大前駅 下車 徒歩約15分)
- (4) 参加対象 大学院生または若手研究者で教育社会学に関心のある方(非会員も可)
- (5) 定 員 50名(定員になり次第、締め切り)
- (6) 参加費 1,500円(当日支払い)  
参加費は、資料冊子の印刷費及び通信費等に充当します。交通費・宿泊費につきましては、各自でご準備ください。  
1日目終了後、懇親会を開催します。参加希望者は3,500円を別途ご用意下さい。
- (7) プログラム 別紙1の通り
- (8) 申込方法 参加をご希望の方は、申し込み期間内にお申し込みフォームに必要事項を記入して送信してください。  
お申し込みフォーム：<https://goo.gl/forms/gRH6lNdxC3FmNa2w2>
- 〈必要事項〉 ①氏名、②フリガナ、③所属(大学院生は学年も)、④学会員か非会員かの別、⑤メールアドレス、⑥電話番号、⑦研究テーマ、⑧参加を希望するワークショップ、⑨懇親会参加の有無を記入して下さい。あらためて、担当者より確認の連絡と事前準備ワークシートをお送りします。
- 〈受付期間〉 平成30年1月15日(月)～2月28日(水)
- 〈事前準備〉 参加される方は、別紙2に示した事前準備をお願いします。
- (9) 問い合わせ 【日本教育社会学会第6回若手研究セミナー】(担当：高橋)  
E-Mail：[jses.seminar.2017.18@gmail.com](mailto:jses.seminar.2017.18@gmail.com)
- (10) 共 催 東京大学大学院教育学研究科 北村友人研究室

## (別紙1) 第6回若手研究セミナー プログラム

日	時 間	内 容
3 月 24 日	12:30 ~ 13:00	受 付
	13:00 ~ 14:00	開会挨拶 山内乾史 教育部長 参加者自己紹介、ワークショップ準備
	14:00 ~ 15:00	講演1 オックスフォード大学 ニッサン日本研究所・社会学部 教授 荻谷剛彦「日本（社会）という問題—バウンダリーを超えて」
	15:00 ~ 15:20	休 憩
	15:20 ~ 17:00	質疑応答・ディスカッション 司会：北村友人 教育部副部長
	17:30 ~ 19:30	懇親会
3 月 25 日	10:00 ~ 11:30	<u>ワークショップ—研究力の向上を目指して</u> 3つのテーマ別グループに分かれてグループワーク 1 言説／テキストを分析するとはどういうことか ファシリテーター：仁平典宏（東京大学教育学研究科 准教授） 2 質的な調査と分析の方法に関する科目をどう教えるか ファシリテーター：結城恵（群馬大学大学教育・学生支援機構 大学教育センター 教授） 3 海外での調査・国際共同研究 ファシリテーター 丸山英樹（上智大学グローバル教育センター 准教授）
	11:30 ~ 12:40	昼 食
	12:40 ~ 14:10	ワークショップの続き
	14:10 ~ 14:30	休憩
	14:30 ~ 15:20	全体での振り返り
	15:20 ~ 15:40	閉会式
		参加者アンケート

### ※参加者事前準備

別紙2「第6回若手研究セミナー ワorkshop一覽」の「事前準備」欄の指示に従い、参加申し込み後に別途お送りするワークシートに、必要事項を記入の上、平成30年3月9日（金）までに【日本教育社会学会第6回若手研究セミナー】(jses.seminar.2017.18@gmail.com)までお送り下さい。

## (別紙2) 第6回若手研究セミナー ワークショップ一覽

[内容に関して未定のところがありますが、追ってさらなる詳細をご連絡致します。]

ワークショップ1	テーマ	言説／テキストを分析するとはどういうことか
	ファシリテーター	仁平典宏（東京大学教育学研究科 准教授）
	内容	言説や文字データを用いた研究は増えていますが、それが依拠する方法論／理論は、構築主義やフォーコー的言説分析から、自然言語処理を用いたテキストマイニングに至るまで、多岐にわたっています。その中で査読においては、知見の新規性はもちろん、分析の手続きや前提が厳しく問われます。 自らの前提を問い直しつつ、それぞれの方法的課題と対処するための方向性を、一緒に考えたいと思います。
事前準備	①リサーチクエストと用いる資料（まだ分析してなくても可） ②言説を扱う上で、いかなる理論的・方法的立場に立っていますか？もしあれば書いて下さい。参考になっている先行研究があれば、合わせて挙げて下さい。 ③言説といわゆる「実態」との関係について、どのように考えていますか？もしくは、どんな仮定を置いていますか？（分からなければイメージでも結構です） ④対象とする言説資料と言説空間「全体」との関係について、どのように考えていますか？その資料から「一般的なこと」を言うために、どんな手続きが必要だと思いますか？（思いつきでも結構です） ⑤研究をすすめる上で、どのような課題や悩みがありますか？	
ワークショップ2	テーマ	「質的な調査と分析の方法に関する科目」をどう教えるか
	ファシリテーター	結城恵（群馬大学大学教育・学生支援機構 大学教育センター 教授）
	内容	社会調査士資格取得のために必要となるカリキュラムのうち、「【F】 質的な調査と分析の方法に関する科目」（90分×15回）を担当することになった場合に、授業づくりをどのように進めていくかを考えます。参加者の経験のなかから得られた知見や創意工夫を共有し、意見交換しながら、効果的な教育のあり方を模索していきたいと思います。参加要件は、質的研究に対する関心や経験があることとし、該当科目の担当経験の有無は問いません。
事前準備	「【F】 質的な調査と分析の方法に関する科目」（90分×15回）について、担当経験のある参加者は過去の経験／担当経験のない参加者は自らの質的研究の経験から、次の2点をご準備ください。 1. 質的な調査と分析の方法を教えるときの試行錯誤 (1) 指導に苦労した点／苦労すると想定される点と、(2)その経験から創意工夫をした点と／創意工夫をしてみたい点と、(3)その効果の実際／想定される効果について、具体的なエピソードもとに説明できるように準備をしておいてください。 2. 科目【F】を担当する場合のシラバス 上記1での検討事項も反映したシラバスを作成してください。 シラバスには、(1)目的 (2)到達目標 (3)授業の構成(15回分の構成) (4)各回の内容、(5)授業方法 (6)学習者への評価の観点と基準 (7)指導者の自己点検の方法について記しておいてください。	

ワークショップ3については次ページをご覧ください。

ワークショップ3	テーマ	海外での調査・国際共同研究
	ファシリテーター	丸山英樹（上智大学グローバル教育センター 准教授）
	内容	ここでは、海外調査と国際共同研究の2つを扱う。海外調査は準備によって成果が分かれることが多く、国際共同研究ではコミュニケーションや人間関係が重要になることもある。日々の研究者としての準備がそのまま結果につながることもあり、本ワークショップでは、参加者の経験や工夫を共有し、各自の課題を捉え直す機会としたい。
	事前準備	I) 海外調査の実施において、ご経験・期待・不安などを記してください。 II) 国際共同研究 (A)政府系機関による調査研究 (B)多国籍チームによる研究 III) 海外調査に向けて毎日の準備 IV) テーマ・内容に関連する意見や悩みなど

※事前準備については、参加申込み後、別途お送りするワークシートに、希望するワークショップで指示された内容を書いてご準備ください。